

ボロルマ・ボルク (Ms. Bolormaa Borkhuu)、モンゴル

モンゴルは、地理的および気象上の条件により、多くの災害に対し脆弱な状況にあります。モンゴルの主な災害としては、干ばつ、ブリザード、大雪、砂塵嵐、ZUD（夏に干ばつが続いた後の豪雪による冬の非常に厳しい寒さによる災害）、洪水、地震、森林火災などがあります。国土のおよそ90パーセントが干ばつの恐れがあり、また75パーセントが地震活動の活発な地域であるとされています。さらに、12の地方中心地が非常に大規模な地震が起こる可能性があるところに位置しているとされています。



1996年以來、1,035件の深刻な森林・草原火災、29件の大規模な雪害、60件の伝染病蔓延、33件の有毒ガスや放射線物質の漏出災害が発生しています。また、モンゴルの経済発展を阻害している大きな要因は干ばつや厳冬などの自然災害であると言われています。干ばつや厳冬などの自然災害による被害をGDPに換算すると、2000年のGDPの15.7%、2001年のGDPの14.8%に及んでいます。

こうしたことから、モンゴル政府にとって、防災システムをよりよいものへとしていくことは喫緊の課題となっています。そのためにはまず、国際的に最優良の事例について学び、モンゴルへの適応について考えていく必要があります。モンゴルにおける人的・物的資源には決して十分ではありませんが、日本の防災システムからもいろいろと学ぶ必要があると思います。もちろん、すべての国際的な防災のための最優良事例をそのままモンゴルに取り入れるわけにはいきませんが、さまざまな事例について学びたいと思います。

2003年1月8日にADRCに着任してから、これまで、第5回アジア防災センター国際専門家会議、ISDRアジア会合に参加する機会を得ました。また、引き続きJICA-ADRC防災行政管理者セミナーに参加し、日本の数多くの防災関連機関や施設を訪れて、日本のレベルの高い防災システムについて学ぶことができました。

着任後これらの会議やセミナーへ参加したことは、私の日本での研究のために非常に役立ちました。客員研究員プログラムの成果として、帰国までにまとめることになっている「モンゴルの災害対策のための事業計画」の立案のためのさまざまなアイデアを得ることができました。

(ボロルマ・ボルク、モンゴル自然環境省 運営戦略計画課 担当官)